

**第一回 IT 活用分科会（大阪） 議事録**

**日時：** 2009/09/25（金） 14:00~17:00

**会場：** 大阪丸紅ビル 13F E 共用会議室

**テーマ：** Windows 7 への移行とその課題

**講師：** 創報 テクニカルライター 山近慶一 様

IDG Windows Server World ライター

Microsoft MVP Data Center Management - Update Services

**司会・進行：** IT 活用分科会座長

三星ダイヤモンド工業株式会社

総務部 情報課 林 道彦 氏

参加企業のほとんどでは Windows XP SP3 を利用している。

PC のリース期限を間近にしている企業、PC を買い取りして購入から 4、5 年経過している企業の参加者がほとんど。

Windows Vista の導入を見送っていることもあり、Windows 7 への関心が非常に高かった。

各参加者が知りたかったことは、現在の Windows XP 環境で動作している自社システムや、Internet Explorer 7 以前のバージョンで利用している WEB アプリケーション、さらに現在利用している Microsoft Office のバージョンを変えずに利用し続ける方法であった。

Windows 7 を導入した場合は、UI の変更による利用者への再教育も懸念材料と感じている。

現在の社内導入 PC の OS だけをアップグレードを計画しているユーザはほとんどいない。

講演では、Windows XP から直接アップグレードができないと紹介があったが、上記理由からあまり気になっていない。

一番関心が高かったのは、Windows 7 で提供される Windows XP モードだった。

Windows 7 のスタートアップから直接 Windows XP アプリケーションを起動できることに注目していた。

Windows XP モードの、仮想デスクトップ画面を経由することなく既存システムを利用させることができそうであることがポイントである。

さらに、Windows XP モードの Internet Explorer バージョンを Internet Explorer 6 まで変更できそうであることに注目していた。

Internet Explorer 7 以前でなければ利用できない WEB アプリケーションも、Windows XP モードの仮想デスクトップ画面を経由する必要があるが、期待が持てそうであった。

実際に Windows 7 の PC を入手次第行うアプリ毎の検証作業に期待が持てる内容であった。

しかし、2014年のWindows XPのサポート終了時までには、これら既存のシステムを今後のOSやInternet Explorerへ対応させなければならないことは変わっていない。

以上

※当分科会の運営方針により、個人/会社名を特定できる発言、および発表者から公開の許可を得られなかった内容は議事録より削除されています。あらかじめご了承ください。